

中学校国語

平成21年度

平成22年度

課題1 主語・述語の関係

県の通過率 40.1%

57.1%

問題 二 4

平成16～22年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果をみると、主語と述語の関係をとらえる力の定着が不十分であることが分かる。

これまでの誤答の状況から、述語が他動詞である場合の主語をとらえることが苦手であり、「〇〇を」という目的を表す語を主語ととらえてしまう傾向があることが明らかになった。

<経年比較>

年度	通過率(%)	述語の種類
平成22年度	57.1	他動詞
平成21年度	40.1	他動詞
平成20年度	63.2	他動詞
平成19年度	51.9	他動詞
平成18年度	51.7	他動詞
平成17年度	35.5	他動詞
平成16年度	84.7	自動詞

平成22年度の主な誤答と無解答の割合(%)

主な誤答	割合
ウ	33.2
無解答	0.4



目的を表す語を主語としている。【33.2%】

ア
田中さんは
イ
大きな
ウ
りんごを
エ
子どもに
わたしは

次の文の わたしは に対しての 主語はどれですか。
次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

○ 文の成分が様々に関係し合っていることを指導する中で、主語が動作等の主体を表す役割をもつことを、様々な例文を示しながら理解させましょう。

○ 三領域(話す・聞く、書く、読む)の指導において、文章を正しく理解、表現させるために、教材文において省略された主語を考えさせたり、作文の指導において文のねじれを訂正させたりするなど、主語と述語の関係を繰り返し取り上げましょう。

<事例紹介> 広島市立温品中学校

ポイント

文法の学習において、問題を解決させる中で、主語と述語の役割をとらえさせ、主語と述語を見付ける手順をしっかりと理解させる。

<本時の展開> 前時には、文節、自立語、付属語を学習している。

- ① 難易度の高い問題を出して答えを予想させる。

「『今日は彼がきみの代わりにその仕事を一人ですると思う。』

の主語と述語を見付けなさい。」

- ② 主語と述語を見付ける手順を考えさせる。

◎ 主語と述語の役割を理解させる。 **強調** 主語は、動作の主体を表す。

◎ 二文節、三文節、四文節、五文節・・・の例文から、主語と述語を見付けさせた上で、見付ける手順を考えさせる。※例文には主語のない文も入れる。

- ③ 見付ける手順を発表させて、見付ける手順をまとめる。

手順1 文節に区切る。

手順2 述語を先に見付ける。

手順3 述語に対応する主語（「だれが、何が」）を見付ける。

- ④ 最初の問題をもう一度考えさせ、主語と述語を確認する。

- ⑤ 見付ける手順を使って、様々な例文の主語と述語をとらえさせる。

ポイント

「読むこと」の指導の際に、文章を正しく理解させるために、文法の学習で学んだ「主語と述語を見付ける手順」を使わせ、主語・述語の関係をとらえさせる指導を繰り返す行う。

◆ 上記の事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 文学的な文章の学習の際に、文脈に即して内容を正しく理解させるために、主語が省略された一文を取り出して主語を確認する。

<例>

エミールが収集をしまっている二つの大きな箱を手にとった。
「『取った』の主語は？」「だれが『取った』のですか？」

- 週1回、家庭学習で短作文を書かせ、主語・述語の関係がねじれていれば訂正させる。

- 小テストを行ったり、定期テストで文章中の一文を抜き出し主語・述語の関係をとらえさせる問題を出したりする。

これらの他に、文学的な文章の指導の際に、二つの内容が含まれている一文を示し、意味を変えずに主語を明確にした二つの文に分けて書かせることも有効です。



課題2 登場人物の心情の把握

県の通過率 44.0% → 51.4%

問題 三 3(3)

平成 15～22 年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果をみると、登場人物の心情をとらえる力の定着が不十分であることが分かる。これまでの誤答の状況から、場面の展開や登場人物の言動等に注意して読んでいないことが明らかになった。

<経年比較>

年度	通過率 (%)	内容
平成 22 年度	51.4	心情をとらえて適切に書く
平成 21 年度	44.0	心情をとらえて適切に書く
平成 20 年度	63.5	心情の変化の理由を適切に書く
平成 19 年度	66.2	心情をとらえて適切に書く
平成 18 年度	71.6	心情の変化をとらえて、言動の理由を適切に書く
平成 17 年度	54.2	心情の変化をとらえて適切に書く
平成 16 年度	38.2	心情の変化の理由を適切に書く
平成 15 年度	20.3	心情をとらえて適切に書く

平成 22 年度の誤答と無解答の割合 (%)	
誤答	割合
「怒られても仕方ない」 「その通りだと思った」	9.3
上記以外	27.2
無解答	12.0

言葉を手掛かりにして行動につながった心情をとらえることができていない。【36.5%】

(3) Ⅱ には、Hの気持ちが入ります。あとの文に続くように二十五字以内で書きなさい。

上田 「Hは、オヤジに怒られると思って逃げだしたかったのに、どうして逃げなかったのかな。文章中に『Hは、たしかにその通りだと思った』とあるけど、Hは、どのように思ったのかな。」

木下 「それはね、『観念して』とあるように、Hは Ⅱ と思ったから逃げなかったんだらうね。でも、意外にもオヤジはみんなを抱きしめてくれたんだよね。」

略

妹尾河童 「少年H」による。

次の の中には、この文章を読んだ二人の生徒の会話が書かれています。あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 文章のあらすじをおおまかに確認させた上で、場面ごとの展開を読み取らせましょう。
- 登場人物の心情が表れている言葉(直接的な心情表現や間接的な心情表現)を手掛かりに、心情やその変化をとらえさせましょう。
更に、読み取ったことを自分の言葉でまとめさせ、友だちと交流させましょう。
- 教科書教材と関連する作品を読ませ、生徒の読む能力を向上させましょう。

課題3 文章の展開の把握

平成21年度 県の通過率 56.5% ⇨ 平成22年度 73.8%

問題 4

平成19～21年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果をみると、文章の構成や展開をとらえる力の定着が不十分であることが分かる。

これまでの誤答の状況から、段落相互の関係とさらに大きな意味のまとまりをとらえていないことが明らかになった。

平成22年度は通過率が上昇した。

<経年比較>

年度	通過率(%)
平成22年度	73.8
平成21年度	56.5
平成20年度	69.0
平成19年度	46.6

平成22年度の主な誤答と無解答の割合(%)

主な誤答	割合
ウ	10.9
イ	9.6
ア	3.9
無解答	1.7

日高敏隆

「セミナー」と温暖化『春の教えかたの食いちがい?』による。

この文章はどのように論が展開されていますか。次のア～エの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

ア 初めに話題を提示し、次に実験内容とその結果について説明し、結論を述べたあと、読み手に疑問を投げかけている。

イ 初めに話題を提示し、次に実験内容とその結果について説明し、読み手に疑問を投げかけたあと、結論を述べている。

ウ 初めに話題を提示し、次に読み手に疑問を投げかけ、結論を述べたあと、実験内容とその結果について説明している。

エ 初めに話題を提示し、次に読み手に疑問を投げかけ、実験内容とその結果について説明したあと、結論を述べている。

段落相互の関係を正しく押さえることができていない、大きな意味のまとまりごとの役割を理解できていない。【24.4%】

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

○ 論の展開をとらえさせるために、文章構成図を作らせるなど、文章全体における段落相互の関係について整理させましょう。

○ 大きな意味のまとまりごとに、文章全体における役割をとらえさせましょう。

<事例紹介> 福山市立精華中学校（福山市A地区研究推進地域）

ポイント

読む目的をもたせ、文章の展開を整理させ、必要な情報を読み取らせる。

教材：「クジラたちの声」中島 将行

<学習の流れ>

- ① 文章を読む目的をもたせる。課題「クジラのコミュニケーションから学んだことをまとめよう」
- ② 家庭学習としてコミュニケーションについて辞書等で調べさせ、考えたことをまとめさせる。
- ③ 本文から、クジラのコミュニケーションの取り方、筆者の主張を読み取らせる。

序論 ④ クジラはコミュニケーションで生きていくようだ。(中略)	本論 ⑤ 情報を受信・発信する手段は何ぞ？ ④ 音(鳴き声) クリク まわりの様子を知り、高い音 ホイッスル 仲間とのコミュニケーションの 手段、低い連続した音	結論 ⑤ 海(光が届かない)と視界が狭い 体の特徴 聴覚が発達(⑧) 音(⑥) 鼻の奥にある袋に音を貯める 舌帯X ⑥ まわりを知らずコミュニケーション
--	---	---

必要な情報をとらえさせるために、文章全体の展開と構成をまとめさせる。

「序論・本論・結論」を踏まえさせる。

できるだけ簡潔な表現でまとめさせる。

<生徒のノート>

結論部をまとめさせる際に、本論の内容と関連付けさせる。

「問い」と「答え」という段落相互の関係に着目させ、必要な情報(コミュニケーションの手段とその手段を使う目的・理由)をとらえさせる。

- ④ クジラと人間のそれぞれのコミュニケーションの取り方について、視点を決め比較させて表にまとめさせる。表からクジラと人間の共通点と相違点をとらえさせ、分かったことや考えたことを交流させる。
- ⑤ クジラのコミュニケーションから学んだことをまとめさせる。

クジラ 情報伝達 まわりの状況 歌 求愛 ライバル	人間 あいさつ その場の状況 事件のこと、発表 友達のこと、予定、思っていること
伝える方法 音 おとり	伝える内容 ことば、音、手話、動き 表現、文字、手紙、タブレット Xリアルタイム電話
その場の状況 相手の状況から方法を えらぶ	その場の状況 自分の状況

◆ 上記の事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 文章全体の構成図を書かせ、段落相互の関係や文章の展開が一目で分かるようにさせる。
- 段落の内容を書いたカードを正しく並べさせ、段落のつながりを判断するポイントを考えさせる。
- 単元の導入において、小学校で学習した説明文(文章の構成や展開が中学校の教科書教材に類似しているもの)を取り上げ、構成や展開をとらえる練習をさせる。

指導を充実させるために、筆者の論の展開の意図を考えさせることも大切です。

